

「人口減少」「財政見通し」 執行部と熱い論争

質問者9人、傍聴者43人

一般質問は、年4回開催される定例会の中で行われます。

ここに掲載したものは抜粋ですので、全文につきましては、会議録を閲覧されるか、市議会のホームページでご確認ください。

実藤 輝夫 議員

質問項目

- 1 将来に亘る人口減少と財政悪化に対処する朝倉市の施策について



Q ヤクルトが筑前町に進出することになったが、企業誘致は雇用拡大に繋がる市長施策の重要課題では。

A 本市にも問い合わせがあったが、筑前町が持っていた工場用の造成した土地、更なる造成という形で残念ながら筑前町が誘致した。
Q 筑前町長は数度に亘り東京本社まで行って誘致活動をしたらと聞くが、朝倉市長は。
A 私は担当者に言っ

Q 企業誘致。なぜヤクルトは筑前町に進出したか

A 朝倉市にも問い合わせがあったが結果として筑前町に

ポイントまでとつた。向こうの事情でちょっと待つてくれという返事だった。本市は工場があった空き地、民間所有の空き地等があったが、他の要因で筑前町に行つた。トップとしてやるべきことはやつたつもりだ。
Q トップの態度、姿勢の違いたと思うが、今後この種の大企業の受け皿は。
A ロームの跡地や林田工業団地、農地転用が可能な農地も把握している。

Q 市は甘木鉄道のJR鹿兒島本線への乗り入れを国

に申請。国は地方創生加速化交付金を不採択とした。その理由は。
A 国の判断で理由の説明はないが、残念ながら100%の交付金が不採択となった。しかし、今後単独で何がしかの予算を付けるか、沿線や甘木鉄道の協力を得て何とかやっていきたい。

Q 実現には関連自治体が集まって甘木鉄道協議会を作り、当初調査費だけで3000万円、その後5年間の期間に乗り入れを完了しなければならぬ。今後の

計画、折衝、具体的完成までの財源の捻出等、最初に踏いた計画を実現するのはかなり難しい。期待しているだけに残念だ。
A JRとの対応、国交省との話し合い等、やれることはやつていきたい。



甘木鉄道の活用と
将来の朝倉

Q 学童保育の施設整備と支援員の処遇改善を

A 条例に基づいて整備指導していききたい

佐々木 明子 議員

- 質問項目
 1 子どもの貧困対策について
 2 放課後児童健全育成事業について



Q 保護者が労働などにより昼間家庭にいない子どもたちの放課後と、学校休業日の生活を守ることが学童保育の役割である。
 朝倉市は国の運営指針に基づき、平成26年度に設備及び運営に関する基準の条例を策定している。市には

公設、民設合わせて15ヶ所の学童保育所があり、500名を超す児童が通っている。働く保護者が増加しており、その必要性が年々高まってきている。

しかし、事務室が無い、トイレが一つしか無い、学校時間外は外のトイレを使用しているなどの基準を満たしていない学童保育所があり、施設の整備が必要である。

また、現在92名の支援員がいるが、非正規雇用がほとんどである。勤務体制、研修、賃金などの労働条件も整備されていない。

今後は、支援員は認定資格が必要となり、責任ある仕事を課せられるようになる。支援員が安心して働き続けられる処遇の改善はできないのか。

A 子どもが過ごしやすい環境をつくるのが大事なので、条例に基づいた整備を行っていききたい。支援員の待遇については、指定管理者の学童保育所代表者などで指導を行う。

Q 子どもの貧困対策の一つに就学援助がある。その中には新入学児童生徒学用品費などがあり、入学時における保護者の負担の軽減を図ったものである。しかし支給が7月では遅い。福岡市のように3月に支給できないか。

A 現時点で導入する考えは無いが、今後の検討課題とした。



学童保育所の様子

Q 教育委員会がPTA会長を基だ遺憾に思う事は、組織そのものを遺憾に思うこと。PTAと教育委員会の関係は大丈夫か。

A 事実として済んでいることに対して、PTAの方々には反対している事への当時の感想で、PTAの役員さ



富田 栄一 議員

- 質問項目
 1 学校づくりについて
 2 財政見通しと甘木駅周辺の国道322号線のクランク解消について

ん方が理解いただいていない部分があったので、残念だったという事で遺憾と申した。適切ではなかったと思っている。

Q 平成24年の豪雨災害時の記録で、職員室前の水深が30cm或いは35cmとか曖昧な数字で言っているのではないかと。水が集まる所は、土砂災害で危ない。現場を見た方は、個人的な意見として一番東側の水路が危ないのではと言われた。暗渠排水もある。本当に大丈夫なのか。

A 昨年9月に答弁したとおり、いろんなゴミが詰まって水路を塞いだ。雨水排水路の点検を行うようにしている。

Q 小中一貫教育について教育委員会としての大きな柱は何か。相互乗り入れ授

業での職員の業務命令、免許の課題。また小中教員間の打ち合わせ時間の確保、教職員の負担感・多忙感の解消、9年間の系統性に配慮した指導計画の作成・教材の開発など課題もある。

A 小中一貫の在り方については、検討部会で決めていく。郷土に誇りを持ち、郷土を愛し、守り育てて子どもを育成する。その観点から小中一貫した共通目標を立てて取り組んでいく。



なぜか小さくなっている学校東側の上流水路

Q 本当に、大丈夫なのか

A 雨水排水路の点検を行う

「無駄遣い」市民の声を市長はどう考えるか

A 決して無駄遣いだという気持ちはない

中島 秀樹 議員

質問項目

- 1 財政について
- 2 筑後川水系ダム群連携事業に対する市の考え方について



Q 今後10年の財政見通しの資料を市民に公開できないか。

A 可能だが、数字だけを出すのは危険。説明をして理解してもらう必要がある。
Q 財政は悲観するものではないが、課題は必ずあるものである。それを明確に

して、克服することが必要だ。朝倉市の課題は何か。

A 交付税の減収に伴い、黒字が減り、赤字に近くなっていることが予想される。ただ、今までの蓄えもある。

Q 私は議員として、議場で市民の声を市長に届けなければならぬ。朝倉市の人口が減っていくなか、2つの大きな事業をして大丈夫なのか。無駄遣いだという市民の声があるが、市長はどう考えるか。

A 例えば、朝倉農業高等学校跡地活用について無駄遣いだとは思わない。人口が減るから必要がないのか。市庁舎にしても人口減少だから、これでいいのかという話である。市庁舎が古くなり、いずれ手を加えることになるならば、財政的に有利なときに行った方がよい。

少しでも安い金額で良い物をつくり、後世の人たちがうまく活用するということができれば、決して無駄遣いだという気持ちはない。

Q 財政の全体像を捉えて、まずは医療費や介護費の増加を抑制する政策的努力をしていくことが必要である。一方、長期的には若者の定住化がカギになる。朝倉市が選ばれるために、優先順位をつけて資金を若者に配分できないか。

A 一つの方法だと思う。色々な政策を財政的に継続できるかが非常に難しく、なかなか踏み切れずにいる。



長期の未来を考えることができるか

Q グローバル社会の中で、英語は母国語と同じ必須科目として取り組まれている。市の小・中学校の英語力向上の取り組みを伺う。

A 小学校では、英語を通じて文化やコミュニケーションを図り、表現になれる親しむことに重点を置いている。

中学校では、標準学力調査で県平均以上になることなどを目標としている。

Q 沼津市では、小・中学生の英語力を高めるために、平成18年3月に政府の言語教育特区の申請を活用し、全小・中学校のカリキュラムに言語科を導入、ALTEや教諭が担当する授業目標を掲げて取り組まれている。さらに、英検試験を1回のみ半額を助成して、自己の英語力の判定と自信を持たせることに力を入れられている。既に24%の合格率を達成されており、平成28年度は40%を目標に取り組まれているとのことである。将来の朝倉市の宝を育てるために必ず必要なことだと考えて、中学生の英検試験の二回のみ半額助成の導入ができないか。

A 英検試験は後援会や育成会などの予算で取り組んでいるところ、個人負担で行っているところと様々である。現在は一律に英検試験のみを助成する考えは持っていないが、可能な限り研究を進めていきたい。

Q 安全対策として、障がい者や不慮の事故などで怪我をした生徒の安全を守るために、スロープや椅子式の階段昇降機を全小・中学校に設置すべきではないか。
A 現在3小学校と3中学校のみ設置している。障がいを持つ子などが入学してくる前には設置できるようにしている。

村上 百合子 議員

質問項目

- 1 災害に強い街づくりについて
- 2 学校教育行政について
- 3 コミュニティセンター事業について



Q 中学生に英語検定試験の半額助成の導入を

A 英検検定試験のみを助成する考えはない



子供たちにチャンスと自信を